

Anti human RAR α mouse monoclonal antibody

RAR α : Retinoic Acid Receptor α

製品コード	PP-H1920-00 旧コード ZZH1920H
Clone No.	H1920
Lot.	A-1
濃度	1mg/mL
容量	100 μ L
Ig class	G1
Nomenclature	NR1B1
Genebank	X06614

由来 ヒトRAR α (1-30 aa) の Baculovirus 発現物を免疫した BALB/c マウスの脾臓細胞と、マウスミエローマ細胞 (NS-1) を融合して得たハイブリドーマを、BALB/c マウスに接種して得られた腹水。

特異性 ヒト RAR α と特異的に反応する。ヒトRAR β , γ には反応しない。その他の動物種との交差反応は未検討。

精製法 硫酸塩析法

溶媒 生理的食塩水 (防腐剤として 0.1% Na₃ 添加)

Application 使用濃度は実験にあわせて至適化が必要です。

Western Blot	可 参考使用濃度 1 μ g/mL
非還元 Western Blot	可 参考使用濃度 3 μ g/mL
ELISA	可 参考使用濃度 0.2 μ g/mL
免疫沈降	可 参考使用濃度 適宜調整してください
Supershift Assay	未検討 参考使用濃度 -
クロマチン免疫沈降	未検討 参考使用濃度 -
免疫染色	未検討 参考使用濃度 -

保存方法 1ヶ月程度の保存の場合は、2~8 $^{\circ}$ C で保存可能です。長期保存の場合は、抗体を小分けした上で、-20 $^{\circ}$ C 以下での保存をお勧めします。また、凍結融解を繰り返すと、抗体が劣化し、本来の性能が得られない場合があるため、お避けください。

参考文献 Jun Qin, *et al.* Developmental Dynamics, 2007, 236: 810-820

備考 溶媒に含まれる Na₃ は、鉛や銅と反応し爆発性化合物を形成する恐れがあります。廃棄の際には大量の水と一緒に希釈して廃棄してください。

FOR RESEARCH ONLY. NOT FOR USE IN HUMANS.

本製品は研究目的のみで使用することができます。人やそのほか動物の疾病診断、治療・予防に使用することはできません。研究目的以外で使用する場合は、あらかじめ弊社にご相談ください。

MADE IN JAPAN

Apr 17, 2007

Anti human RAR α mouse monoclonal antibody

RAR α : Retinoic Acid Receptor α

製品コード PP-H1920-00

Clone No. H1920

Lot. A-2

濃度 1mg/mL

容量 100 μ L

Ig class G1

Nomenclature NR1B1

Genbank X06614

由来 ヒトRAR α (1-30 aa) の Baculovirus 発現物を免疫した BALB/c マウスの脾臓細胞と、マウスミエローマ細胞 (NS-1) を融合して得たハイブリドーマを、BALB/c マウスに接種して得られた腹水。

特異性 ヒト RAR α と特異的に反応する。ヒト RAR β , γ には反応しない。その他の動物種との交差反応は未検討。

精製法 硫安塩析法**溶媒** 生理的食塩水(防腐剤として0.1% NaN₃添加)

FOR RESEARCH ONLY. NOT FOR USE IN HUMANS.

本製品は研究目的のみで使用することができます。人やそのほか動物の疾病診断、治療・予防に使用することはできません。研究目的以外で使用する場合は、あらかじめ弊社にご相談ください。

Application 使用濃度は実験にあわせて至適化が必要です。**Western Blot** 可
参考使用濃度 1 μ g/mL**非還元 Western Blot** 可
参考使用濃度 3 μ g/mL**ELISA** 可
参考使用濃度 0.2 μ g/mL**免疫沈降** 可
参考使用濃度 適宜調製してください**Supershift Assay** 未検討
参考使用濃度 -**クロマチン免疫沈降** 未検討
参考使用濃度 -**免疫染色** 未検討
参考使用濃度 -

保存方法 1ヶ月程度の保存の場合は、2~8°Cで保存可能です。長期保存の場合は、抗体を小分けした上で、-20°C 以下での保存をお勧めします。また、凍結融解を繰り返すと、抗体が劣化し、本来の性能が得られない場合があるため、お避けください。

参考文献 Qin J, *et al.* Dev Dyn. 2007; 236(3): 810-20

備考 溶媒に含まれるNaN₃は、鉛や銅と反応し爆発性化合物を形成する恐れがあります。廃棄の際には大量の水と一緒に希釈して廃棄してください。